

平成27年8月7日

No. 48

# 日立理科クラブ通信



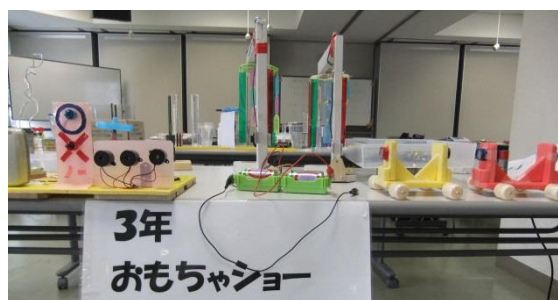
日立理科クラブ

## 日立理科クラブ活用研修会 (小学校の部)

8月5日(水)午前中に行われた、日立理科クラブ活用研修会(小学校の部)を紹介します。「日立理科クラブの支援授業と学習教材の活用方法について研修を行い、授業での活用を図り、本市児童・生徒の科学への興味・関心を高める。」ことを目的に、日立理科クラブ授業支援担当者が講師になり、市内の小学校の先生方と実践的な研修を深めました。

前半は、支援講師が、テーブルに並べてある学年ごとの教材・教具の使い方の効果的なポイントを簡潔に述べ、実際に支援授業したときの児童たちの反応を交えて活用の利点を説明しました。また、科学クラブで活用されている教材・教具の紹介も行いました。自由参観では、それぞれの担当者に、教材・教具の使い方や、活用の利点などを熱心に聞いている先生方が多く見られました。

次に、大和田指導主事が学級担任になり、模擬授業を行いました。4年「もののあたたまり方」の単元です。授



業の課題、「同じ体積のお湯と水、どちらが重いですか。」という質問に、研修に参加している先生方が生徒になって答えます。実際の授業では、「お湯」、「水」、「どちらも同じ」と答えが3つに分かれますが、「お湯が重い」と答える児童も多く見られます。さすがに先生方の場合、「お湯が重い」と答えたのは0人でしたが、「お湯も水もどちらも同じ」と答えた生徒役の先生もかなりいました。ここで、実際にどちらが重いのがわかる実験を、支援員が演じます。その結果から、「水が重い」ということを理解します。支援員の活用は、短時間で手際よく演示実験を行い、結果が瞬時に分かるということが最大の利点です。4年生の学習能力の発達段階に応じ、子どもたちの考えを、上手に引き出す手段として、支援員を有効に活用することが、今回の模擬授業のねらいです。



最後に、グループに分かれて、日立理科クラブの活用についての協議を行い、次のような内容が先生方から発表されました。

活用の成果	・専門性が高い	・目に見える形で分かりやすい	・スケールの大きい教材
	・体験活動が豊富	・準備が豊富	・効果的な教材で分かりやすい
課題	・打ち合わせの時間がとれない	・日程の調整が難しい	・内容が難解
	・時間配分や言葉が難しい	・活用と日程が合わない	
要望	・教材のレンタル	・生物関係の教材がほしい	・支援授業の映像を見たい

小学校は、「理科室のおじさん」の存在で、どの学校も理科室の整備・管理が機能的になってきています。授業支援も中学校と比較するとかなりの頻度で活用されています。今回の研修で学んだように、支援員の専門性を活用し、子どもたちに科学の不思議さやおもしろさを体験する場とすることが、なによりも大切です。子どもたちが、理科が好きになり、科学に興味を持つことが成果の糸口ではないでしょうか。

文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一  
日立理科クラブ事務所 Tel/FAX 0294-24-3104